

発刊のあいさつ

浦添市教育委員会教育長 保久村 昌 伸

浦添市教育委員会は、一九八七年度（昭和六十二年度）に「琉球王国評定所文書」第一巻を刊行しました。これまで琉球王国の近世史にとって重要な文書であるという高い評価を得ながらも、同文書は断片的にしか翻刻出版されませんでした。当教育委員会では、現在確認されている全資料を「琉球王国評定所文書」全十八巻として刊行する予定です。

浦添市は、歴史的には「うらおそい」の言葉にも示されるように、沖縄本島の政治の拠点として栄え、特に大交易時代と称される時期には中国等とも貿易を行っていました。このような「国際性ゆたかな文化都市」をめざす文化事業の一環として「琉球王国評定所文書」の刊行事業を推進しております。

本事業が琉球・沖縄歴史の研究の発展にいささかなりとも貢献することになれば、これに過ぎる喜びはありません。本事業の遂行にあたっては、新たな史料発掘作業を始めとして幾多の困難が予想されますが、各位の従前にまさるご理解とご協力とによって、その完遂を記したいと決意しています。

「琉球王国評定所文書」第三巻では東京大学法学部法制史資料室所蔵の琉球評定所記録（旧琉球藩評定所書類）の中から旧琉球藩評定所書類目録の番号に従って目録番号一三八七号～一三九五号の七文書を収録しました。史料の大きな内容としては、一八四六年（道光二十六）から一八四八年（同二十八）までの三年間のもので、主にキリスト

教布教のため琉球に派遣されたイギリス人宣教師・ベッテルハイムの布教活動やそれに対する首里王府の対応を詳細に伺い知ることができます。また、接貢船の渡唐前の準備状況の日記も含まれています。以上のことから伺われま
すように、本史料は琉球・沖繩歴史の解明の上で重要な史料になるものと確信しております。多くの市民をはじめ研
究者の間で広く活用されることを願っています。

最後に、本事業のために貴重な資料を提供し、また、刊行について御快諾下さいました東京大学法学部法制史資料
室並びに国立公文書館の関係各位、また、史料の筆耕解説にご協力下さいました研究者各位に深く感謝申し上げ、発
刊の言葉と致します。

一九八九年（平成元）三月吉日